

「つどい」の8つのシキタリ

その1

毎回、多彩、豪華な「えにし」の方がご登壇くださいますが、どんなに高名な方でも、講演料ナシ。「素晴らしい参加者の前で話すことができる、それは“権利”なのだ」と(^_-)-☆

その2

登壇は「権利」なので、よほどのことがないかぎり、「一生に一度」だけせめてものお礼に、ご発言の内容を広めてくださいます。ご著書など、後日お知らせしますので、ぜひお買い求めください

その3

「えにし」の集いのモットーは前例を破ること。〇〇先生、〇〇局長という下っぽい呼びかけは御法度です。地域包括シンポのパネリストは、カラちゃん、たんちゃん、はなちゃん、ただちゃん、さるちゃん、もりちゃんと呼び合って準備メールから盛り上がり、無二の親友に。厚労省局長、認知症のご本人、doctor三方よし、小規模多機能のリーダー、ソーシャルワーカー、経済学部出身のdoctorです。。

その4

えにしの集いには、毎回 news が潜んでいます。認知症ご本人、LGBTご本人が登壇してくださった、それぞれ2年後、マスメディアでブームになりました。今回も、news が隠れています。メディアのみなさま、見つけてくださいね

その5

「乱世、人はボラになる」という法則があります。2001年から10年間も裏方プロのワザでたすけてくださった全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）の拠点を大震災が襲ったとき、国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野の院生・卒業生が立ちあがりました

その6

「えにし」を結ぶには、情報保障が欠かせません。プロによるパソコン文字通訳手話、磁気ループ、指点字を用意することが慣例になりました。介助の方からは参加費はいただかないのも慣例です。今回もパソコン文字通訳が活躍してくださいませ。

その7

「えにし」の会のスポンサーは、ご参加くださったみなさまです。マスメディアがまず、取り上げないメディア批判、広告主に遠慮して躊躇する薬と利権の問題など利益相反問題に切り込めたのは、スポンサーなしで一切をまかなっているからです。

赤字が出たら「小間使い」が老後？の貯金を取り崩す覚悟。

いつもですと、おおよそ、プレスセンター35万円、イイノホール84万円、情報保障29万円、登壇してくださった方の旅費・宿泊費30万円、機材借用代20万円、印刷・紙代35万円、手提げ袋4万円、懇親会登壇者分6万円、宅急便3万円 etc. etc. がかかるのですが。。。

ことしは、会場費ゼロ、交通費ゼロ、パソコン文字通訳とズーム関係の支出だけですの、たぶん、老後の貯金は無事なのではないかと。。

その8

小部屋(ブレイクアウトルーム)は、パネリストのみならずも含めて、籤引き方式で分かれていただきます

“新たな”えにしを結んでくださいね！

話の糸口になるよう「えにし結び名簿」を事前にメールでお送りしました
恋が偶然から生まれるように、名簿、そして、偶然同じ小部屋に入り
「えにし結びタイム」で出会った方々と、
日本を変える「えにし」が結ばれますように...



2020年9月、第20回

福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会オーストラリアから、スウェーデンから、イギリスから、デンマークから、リトアニアから、450人が、国境を超えて ZOOMで「えにし」を結びました。